

## 会員からの声

# 私から見た北海道酪農の現状

艾尼瓦爾艾山

新疆農業大学, 中国新疆烏魯木齊市 830052

私は中国新疆ウイグル自治区政府と日本私立大学協会の学術交流協定による自治区政府派遣研究員として、1994年4月来日し、酪農学園大学酪農学科で酪農を勉強している。1年半ぐらいの間に、日本酪農を代表する北海道の酪農地帯や多くの酪農家を訪問する機会に恵まれた。そこで、自分が実際に見た内容を中心に、北海道酪農の現状に対する自分の見方を簡単に書くことにした。

### 1. 教育水準の高い酪農経営者

日本国民の中学校卒業率は100%で、高校および大学卒業率も非常に高いことは日本に来る前に良く知っていたが、畜産関係のことはほとんど知らなかった。日本に来てから、酪農学園大学で酪農を学んでいる酪農家出身の学生達の割合が高いこと、また、見学したほとんど牧場の経営者や学生達から聞いた彼らの親達の文化水準から、現在日本酪農家の教育や文化水準が非常に高いことを感じた。酪農家の後継者の多くは各大学で酪農、畜産を専攻し、卒業後アメリカやヨーロッパなど酪農先進国に留学研修し、さらに酪農経営を勉強してから後継者になることを理解した。教育水準の高い酪農経営者こそ日本の酪農が20~30年の非常に短い時間で急速に酪農先進国と比肩しうる水準に達した主な原因の一つだと思った。

### 2. 世界最新情報を持つ日本の酪農家

私は日本に来て大変影響を受けたもう一つのこと、日本の情報の広さと速さであった。最も速い情報システムを持つ日本では、酪農家は世界各地の酪農情報を素早く手に入れ、また素早く実際に使っている、パソコンを経営管理に取り入れた酪農家も数多くいる。その他に、多くの酪農家は世界各地を旅行、見学し、良い技術を学び、良い種畜や精液を輸入して、日本の酪農を急速に発展させている。

### 3. 高泌乳牛と高品質牛乳

現在北海道ではほとんどが高泌乳牛、高品質牛乳である。その主な原因は、北海道で酪農経営を開始した

多くは海外で酪農を学んで来た人達である。酪農を取り入れた時から高泌乳、高品質を目標としており、栄養学を基礎とした合理的な飼養管理、人工授精、受精卵移植、後代検定による能力検定保証済みの優良種雄牛の利用、フリーストール牛舎やミルクングパーラーの導入など先進的技術が急速に普及、さらに、優秀な数多くの研究者達の支援も大きいものがあると思つた。

### 4. 高投資酪農

北海道の酪農のほとんどは集約型、施設型、専業型酪農であり、規模拡大の方向に向っている。人間の食糧と家畜飼料の生産を輪作したり、圃場からの副産物や山野の草の利用や、酪農と耕種や園芸とを有機的に結びつけた複合経営はあまり行われていない。乳牛飼育はほとんど輸入飼料に依存し、酪農生産は全て高投資生産であり、借入金依存度が非常に高い。高泌乳牛をそろえるための牛群の淘汰更新は乳牛の平均耐用年数を縮めている。酪農家は経営の維持および借金を返すために乳牛頭数、産乳量および労働時間の増加が必要となるが、一方、労働力を軽減するために機械化がさらに進んでおり、そのための投資や石油などの補助エネルギー使用が多い。酪農も他の産業と同様に円高や株価低迷の影響を直接受けている。その他、アジアの他の国々に比べ、日本国民の生活水準が高く、消費者の酪農製品の価格や品質に対する要求が厳しく、さらに、農産物輸入自由化などは酪農経営を一層厳しくしている。

### 5. 糞尿問題

前項で指摘したように、厳しい条件で酪農経営を維持するために、頭数等の規模拡大の追求、草地飼料基盤の狭隘化、濃厚飼料の依存度強化、加工型生産の性格を強めたため、酪農における糞尿問題は大きな問題となっている。そのため、酪農は都市近郊でできなくなっている。糞尿処理のために酪農家はさらに工夫や投資が必要になっている。